

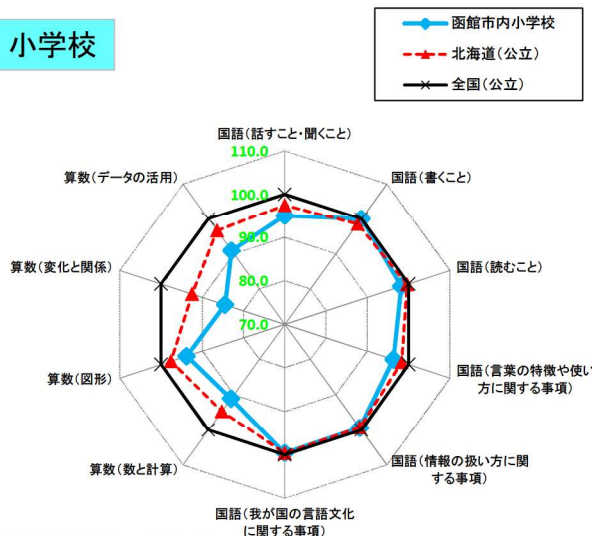
■函館市内の状況及び学力向上策（小学校数：39校、児童数：1349人）（中学校数：19校、生徒数：1304人）

【教科全体の状況】

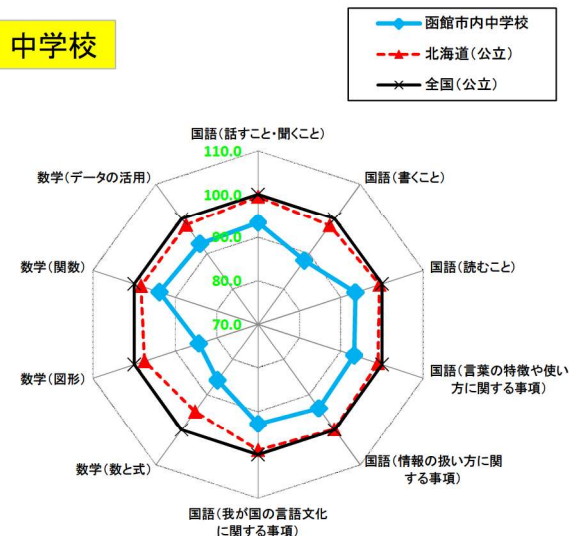
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
 （市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	66	54
算数・数学	58	47

小学校

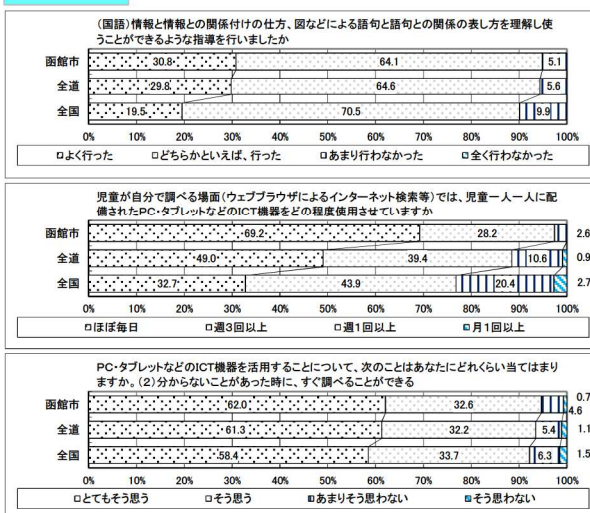


中学校

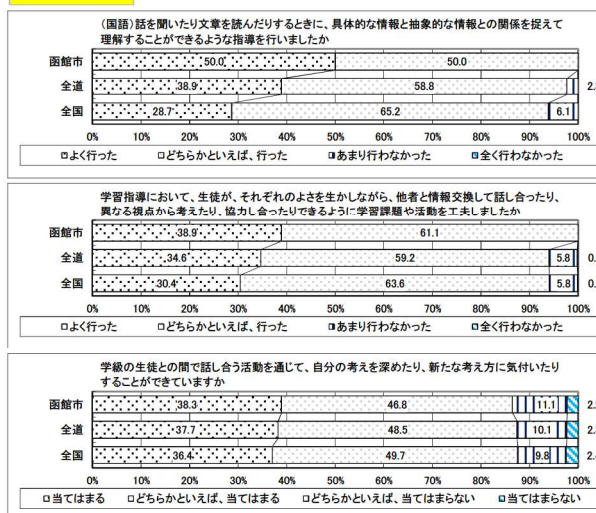


【質問調査の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校
国語の授業において、情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができるような指導をよく行ったことにより、児童の学習内容の理解が深まり、国語の「情報の扱い方にに関する事項」で平均正答率が全道を上回ったと考えられる。 児童が自分で調べる場面（ウェブブラウザによるインターネット検索等）では、児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を積極的に使用させたことにより、PC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、分からないことがあった時に、すぐ調べることができる」と回答した児童の割合が全国を上回ったと考えられる。

中学校
国語の授業において、話を聞いたり文章を読んだりするとき、具体的な情報と抽象的な情報との関係を捉えて理解することができるような指導をよく行ったことにより、国語の「情報の扱い方にに関する事項」で平均正答率が全国に最も近くなったと考えられる。 学習指導において、生徒が、それぞれのよさを生かしながら、他者と情報交換して話し合ったり、異なる視点から考えたり、協力し合ったりできるように学習課題や活動を工夫したことにより、学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができている」と回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【函館市の学力向上策】

- ◎ 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた統一性・一貫性及び継続性をもった指導の推進
- ◎ 学びの姿のイメージが見える単元を通した授業づくりの推進
- ◎ ICTを活用した「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実

【Webページ】



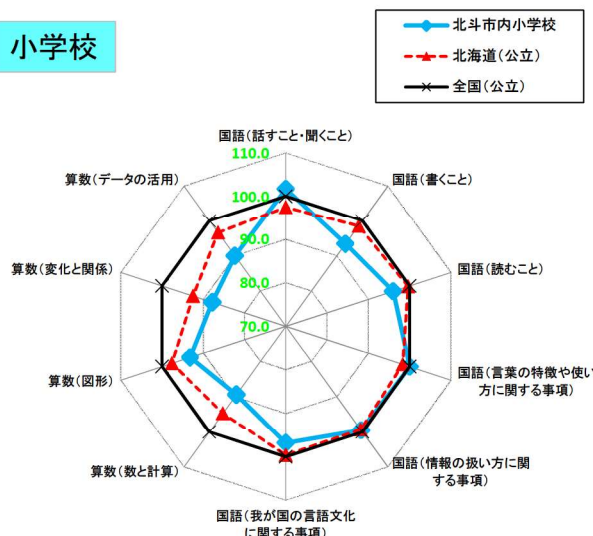
■北斗市内の状況及び学力向上策（小学校数:11校、児童数:349人）（中学校数:5校、生徒数:324人）

【教科全体の状況】

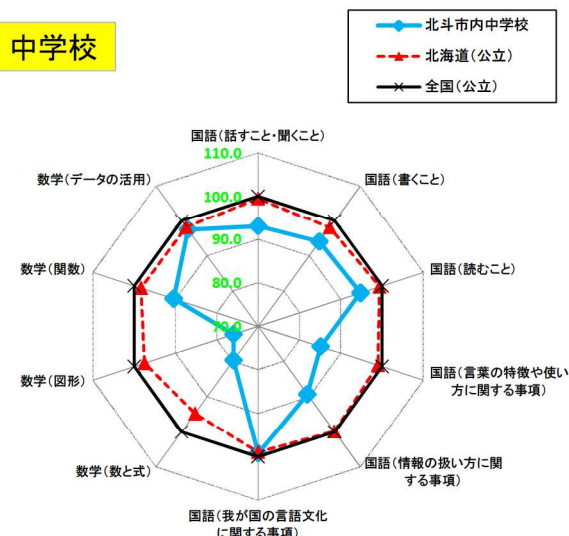
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
 （市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	66	53
算数・数学	57	46

小学校

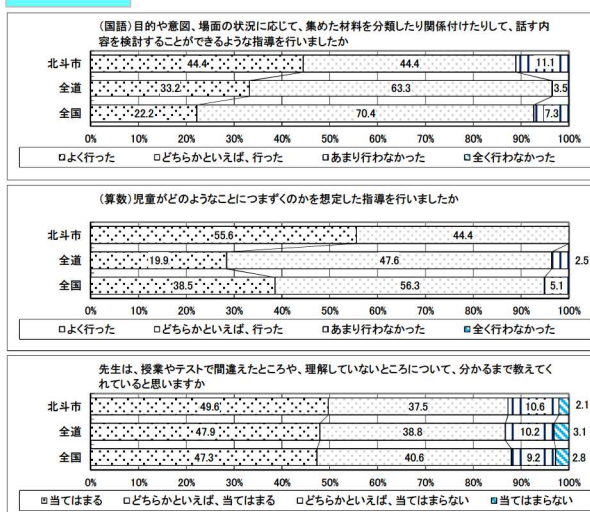


中学校



【質問調査の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校
国語の授業において、目的や意図、場面の状況に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして、話す内容を検討することができるような指導を行ったことにより、児童の学習内容の理解が深まり、国語の「話すこと・聞くこと」の領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。 算数の授業において、児童がどのようなことにつまずくのかを想定した指導を行ったことにより、先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれると思うと回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校
言語活動について、国語科を要しつつ、各教科等の特質に応じて、学校全体として取り組んだことにより、授業改善が図られ、国語の「我が国の言語文化に関する事項」で平均正答率が全国に最も近くなったと考えられる。 学習指導において、生徒が、それぞれのよさを生かしながら、他者と情報交換して話し合ったり、異なる視点から考えたり、協力し合ったりできるように学習課題や活動を工夫したことにより、学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていると回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【北斗市の学力向上策】

- ◎ GIGAスクール構想に基づく1人1台端末を幅広く活用した取組の推進
- ◎ 探究的な学習及び体験的な学習の充実による教科等横断的な学習の推進
- ◎ 児童生徒の課題を踏まえ指導改善のポイントに重点をおいた授業改善研修会の実施

【Webページ】



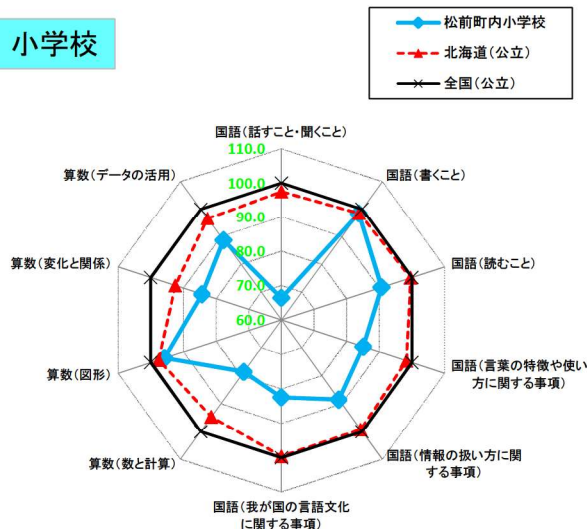
■松前町内の状況及び学力向上策（小学校数:3校、児童数:26人）（中学校数:1校、生徒数:20人）

【教科全体の状況】

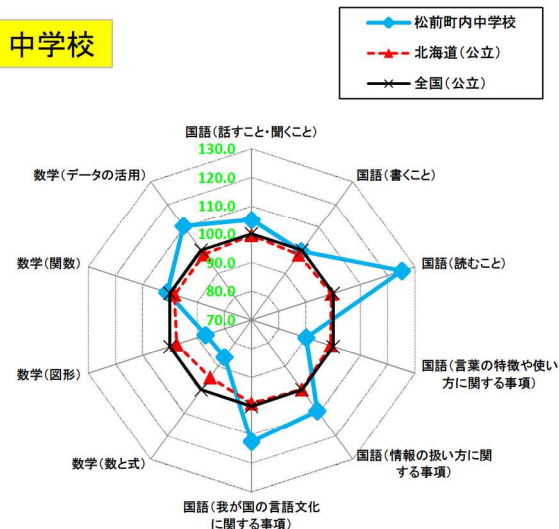
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
 （市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	57	62
算数・数学	55	51

小学校

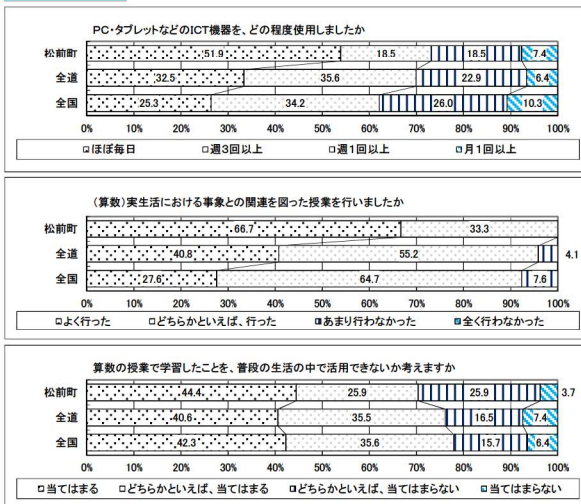


中学校

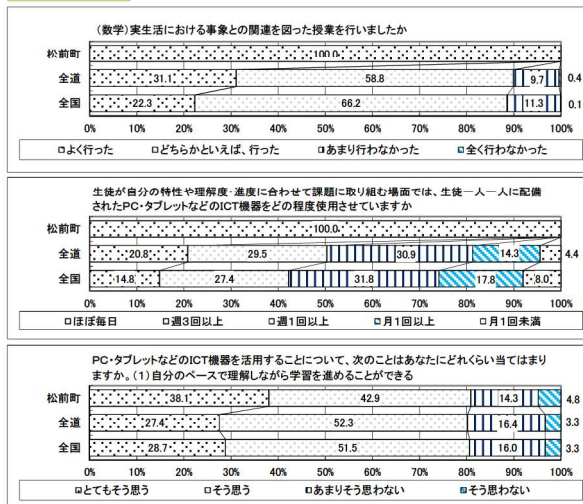


【質問調査の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

ICT機器を活用したプログラミング学習とICT支援員による教職員の研修の充実に取り組み、授業でのICT機器の活用を推進したことにより、授業でPC・タブレットなどのICT機器をほぼ毎日使用した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

算数の授業において、実生活における事象との関連を図った授業を行ったことにより、算数の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えると回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校

小中一貫教育制度の下、「書」の日常化の推進及び書道教育の充実を図ったことにより、授業改善が図られ、国語の「我が国の言語文化に関する事項」で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

生徒が自分の特性や理解度・進度に合わせて課題に取り組む場面では、生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をほぼ毎日使用させたことにより、ICT機器を活用することについて、自分のペースで理解しながら学習を進めることができると回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【松前町の学力向上策】

- ◎ 小・中学校、地域住民及び保護者が一体となった学校運営及び小中9年間の一貫した教育活動の推進
- ◎ アクションプランに基づく「教師の授業力向上」と生活リズムの改善に向けた「松前つ子3リズム」の徹底
- ◎ ICT機器を活用したプログラミング学習とICT支援員による教職員の研修の充実
- ◎ 小中一貫教育制度の下、「書」の日常化の推進及び書道教育の充実

【Webページ】



(R6.12掲載予定)

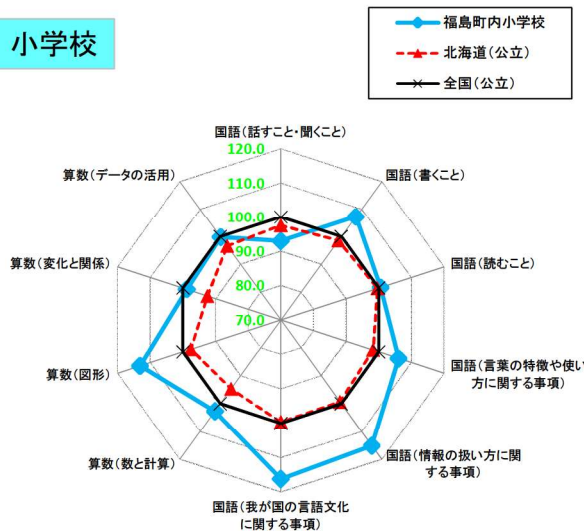
■ 福島町内の状況及び学力向上策（小学校数:2校、児童数:15人）（中学校数:1校、生徒数:15人）

【教科全体の状況】

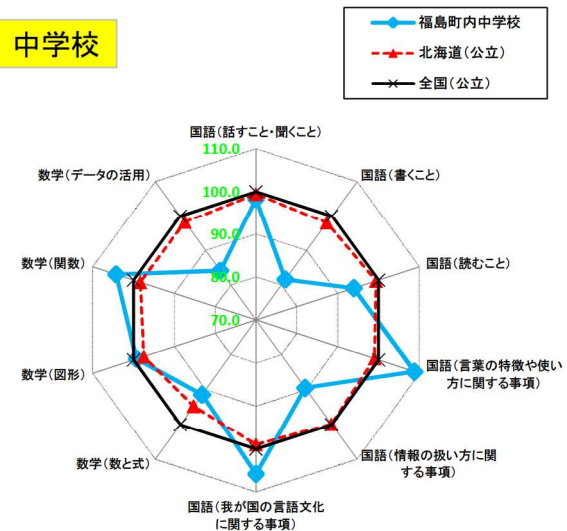
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
 （市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	70	56
算数・数学	67	50

小学校

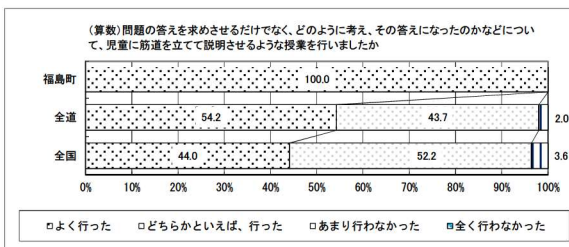
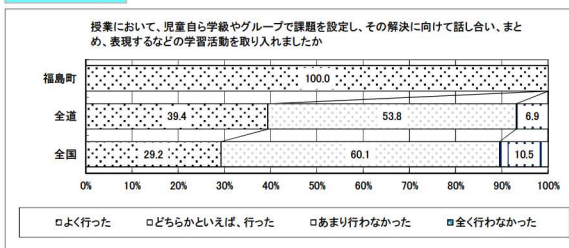


中学校

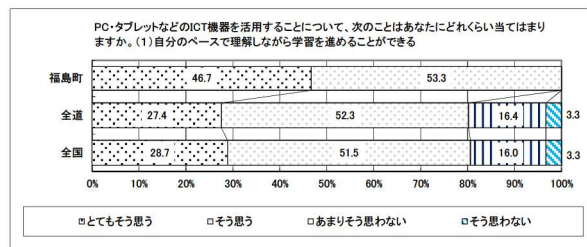
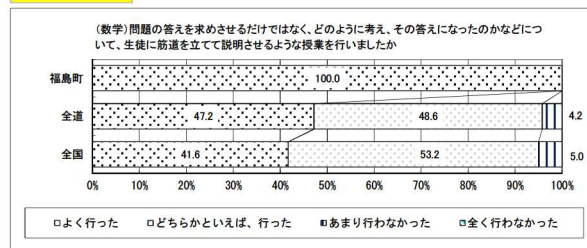


【質問調査の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

授業において、児童自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れたことにより、児童の学習内容の理解が深まり、国語の2領域3事項で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

算数の授業において、問題の答えを求めさせるだけでなく、どのように考え、その答えになったのかなどについて、児童に算数的な表現を意識させ筋道を立てて説明させるような授業を行ったことにより、児童の学習内容の理解が深まり、算数の全ての領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校

数学の授業において、問題の答えを求めさせるだけでなく、どのように考え、その答えになったのかなどについて、生徒に筋道を立てて説明させるような授業を行ったことにより、生徒の学習内容の理解が深まり、昨年度の課題でもあった数学の「関数」の領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

町内で学習支援アプリ「e-ライブラリ」を導入したことや、学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を積極的に活用させたことにより、自分のペースで理解しながら学習を進めることができるという肯定的に回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【福島町の学力向上策】

- ◎ 学習支援アプリ「e-ライブラリ」の導入及びICT支援員を活用したICT教育の推進
- ◎ 児童生徒・保護者に対するICT機器を利用する際の注意事項等の情報モラルの啓発
- ◎ 福島アカデミーを中心に、高校を含めた乗り入れ指導や指導方法の工夫、改善等の交流など一貫した指導体制の構築

【Webページ】



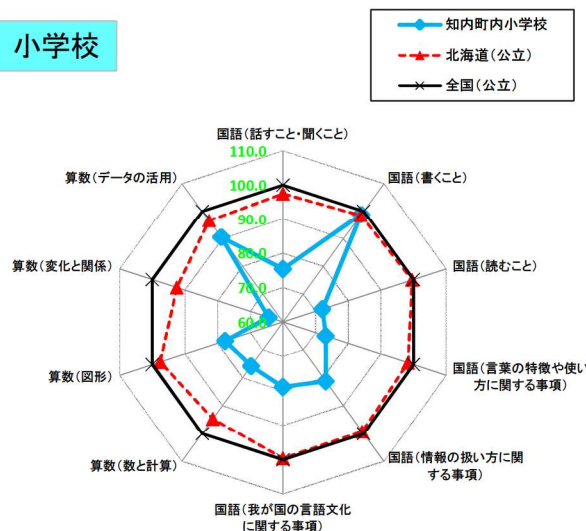
■ 知内町内の状況及び学力向上策（小学校数:2校、児童数:17人）（中学校数:1校、生徒数:26人）

【教科全体の状況】

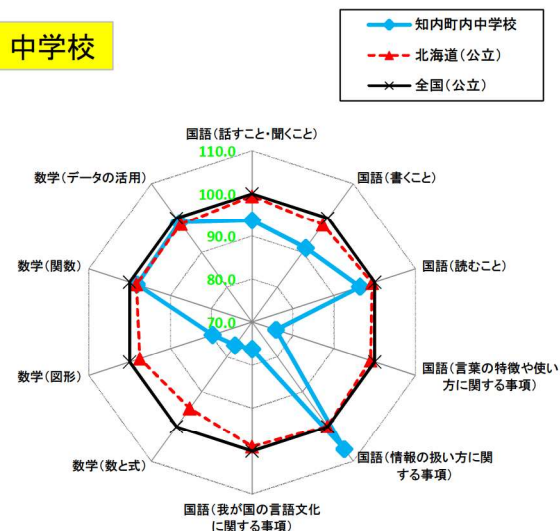
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
 （市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	53	53
算数・数学	50	47

小学校

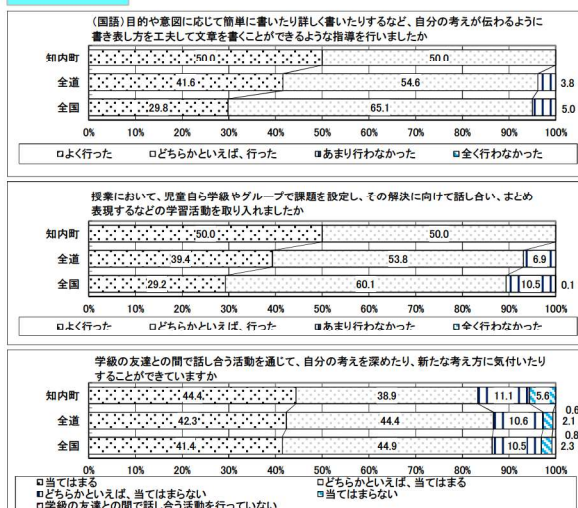


中学校

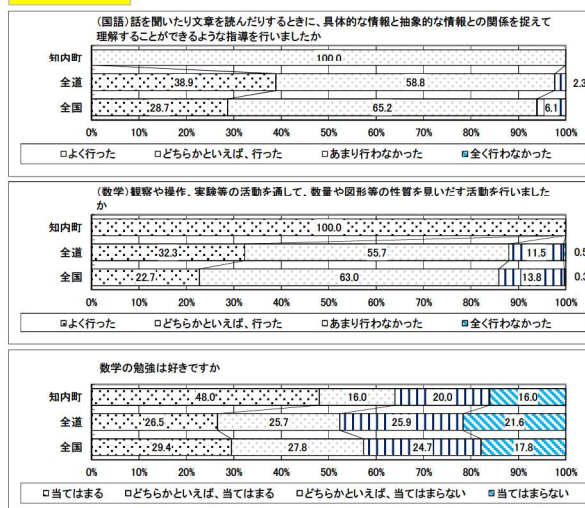


【質問調査の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

国語の授業において、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫して文章を書くことができるような指導を行ったことにより、児童の学習内容の理解が深まり、国語の「書くこと」の領域で平均正答率が全道を上回ったと考えられる。

授業において、児童自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ表現などの学習活動を取り入れたことにより、学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていると回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校

国語の授業において、話を聞いたり文章を読んだりするときに、具体的な情報と抽象的な情報との関係を捉えて理解することができるような指導を行ったことにより、生徒の学習内容の理解が深まり、国語の「情報の扱い方にに関する事項」で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

数学の授業において、観察や操作、実験等の活動を通して、数量や図形等の性質を見いだす活動を行ったことにより、数学の勉強は好きと肯定的な回答をする生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【知内町の学力向上策】

- ◎ 小・中学校9年間を通した教育課程の編成、小・中学校教員による相互乗り入れ指導や児童生徒の交流学習等の充実
- ◎ ICT支援員を活用したプログラミング教育やデジタル教科書を使った授業改善の推進
- ◎ 英語教育推進協議会を中心とした、乗り入れ指導や指導方法の工夫、改善等の一貫した指導体制の推進

【Webページ】



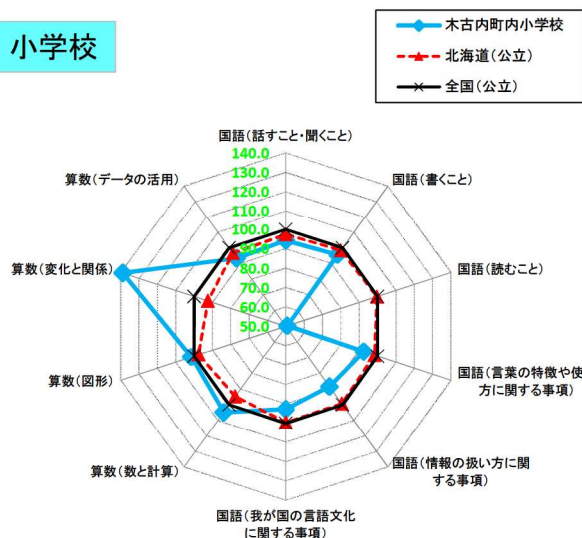
■木古内町内の状況及び学力向上策（小学校数:1校、児童数:13人）（中学校数:1校、生徒数:20人）

【教科全体の状況】

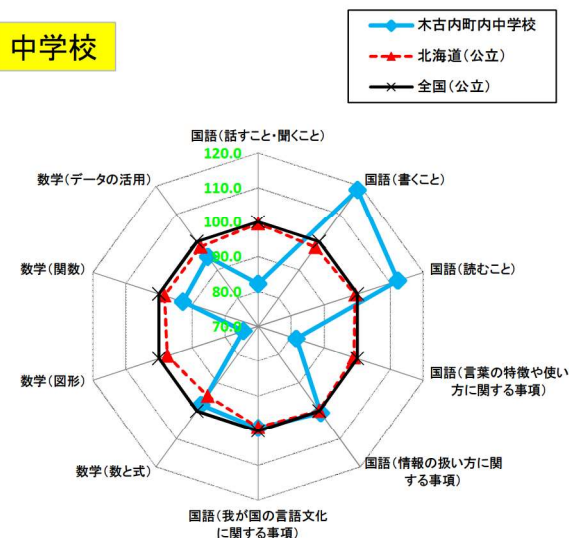
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
 （市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	57	57
算数・数学	68	48

小学校

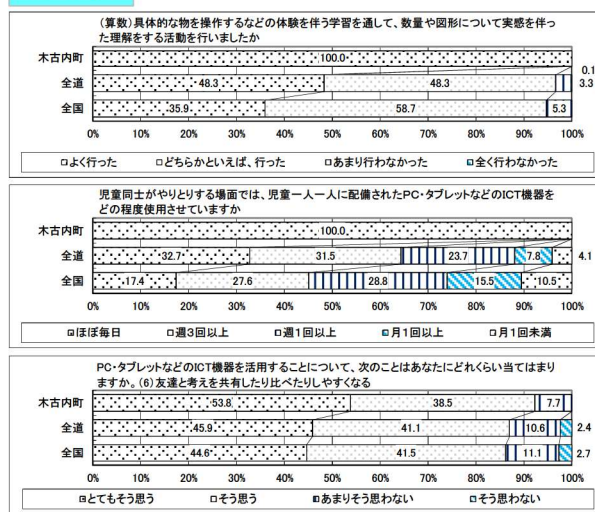


中学校

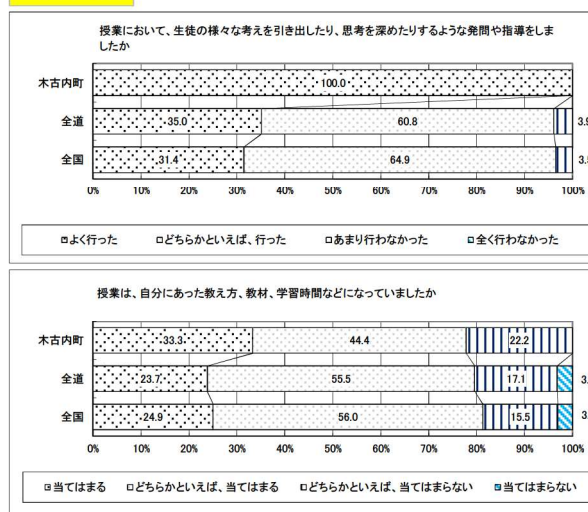


【質問調査の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

算数の授業において、具体的な物を操作するなどの体験を伴う学習を通して、数量や図形について実感を持った理解をする活動を行ったことにより、児童の学習内容の理解が深まり、算数の「数と計算」「図形」「変化と関係」の領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

児童同士がやりとりする場面では、児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を積極的に使用させたことにより、学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、友達と考えを共有したり比べたりしやすくなると回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校

授業において、生徒の様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導をしたことにより、授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていたと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

校内研修やあらゆる研修の機会を通じた教職員の指導力の向上に取り組んだことにより、授業改善が図られ、国語の「書くこと」「読むこと」の領域、「情報の扱い方にに関する事項」で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【木古内町の学力向上策】

- ◎ ICTを積極的に活用した「主体的・対話的で深い学び」の実現と探究型学習を取り入れた授業改善の推進
- ◎ 物事の本質や意義を探って見極めようとする学びの充実
- ◎ 校内研修やあらゆる研修の機会を通じた教職員の指導力の向上

【Webページ】



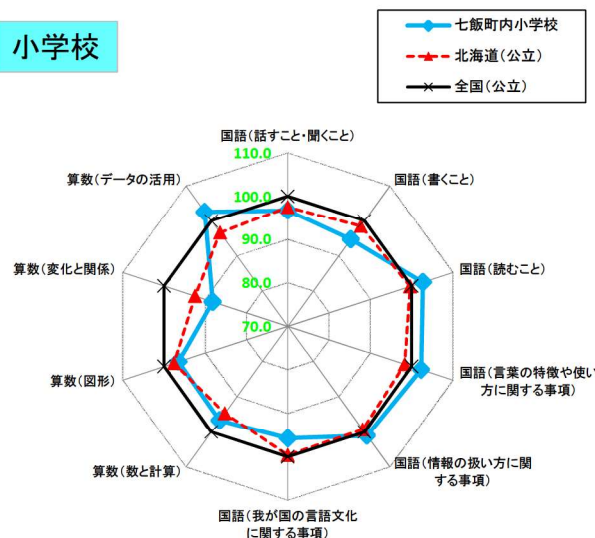
■七飯町内の状況及び学力向上策（小学校数:6校、児童数:196人）（中学校数:4校、生徒数:193人）

【教科全体の状況】

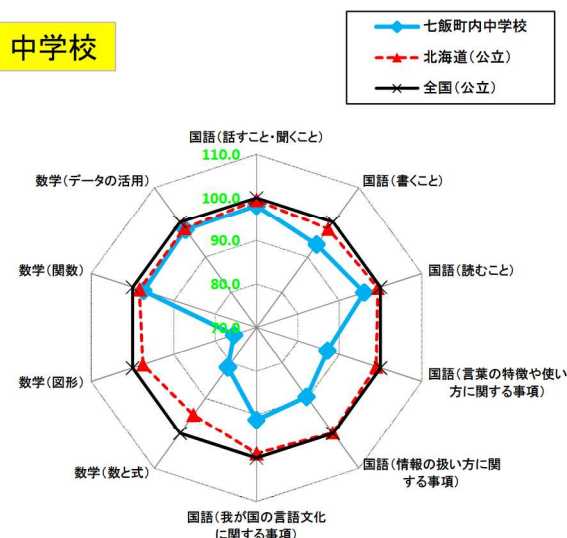
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
 （市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	67	54
算数・数学	61	47

小学校

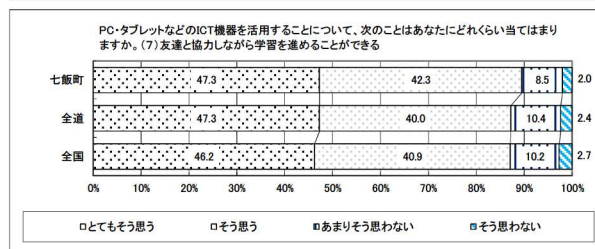
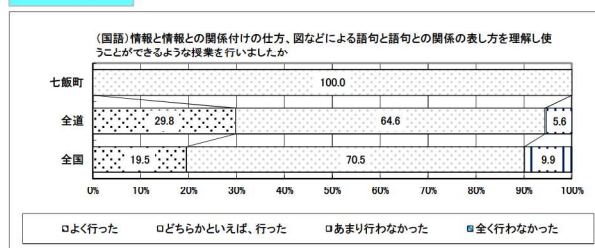


中学校

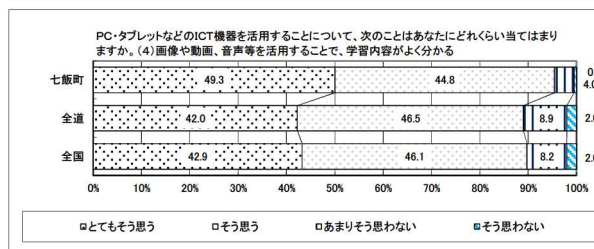
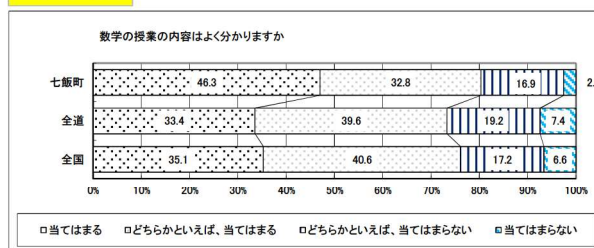


【質問調査の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

国語の授業において、情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができるような授業を行ったことにより、国語の「読むこと」の領域、「言葉の特徴や使い方にに関する事項」「情報の扱い方にに関する事項」で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

町全体で、ICT教育推進委員会を定期的に開催し、ICTの効果的な活用に向けた授業改善に取り組んだことにより、PC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、友達と協力しながら学習を進めることができると肯定的に回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校

学習支援員の配置による生徒一人一人の習熟度にに応じたきめ細かな学習指導の促進を図るなど、生徒の基礎・基本の確実な定着と基礎・基本を活用する力の育成を図り、誰一人取り残さない教育を行ったことにより、数学の授業の内容はよく分かったと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

町全体で、ICT教育推進会議を定期的に開催し、ICTの効果的な活用に向けた授業改善に取り組んだことにより、PC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、画像や動画、音声等を活用することで、学習内容がよく分かったと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【七飯町の学力向上策】

- ◎ 中学校区単位におけるコミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的な取組の推進
- ◎ 七飯町ICT教育推進委員会と連携を図ったICTの効果的な活用に向けた教育の取組の推進
- ◎ 学習支援員の配置による児童生徒一人一人の習熟の程度に応じたきめ細かな学習指導の促進

【Webページ】



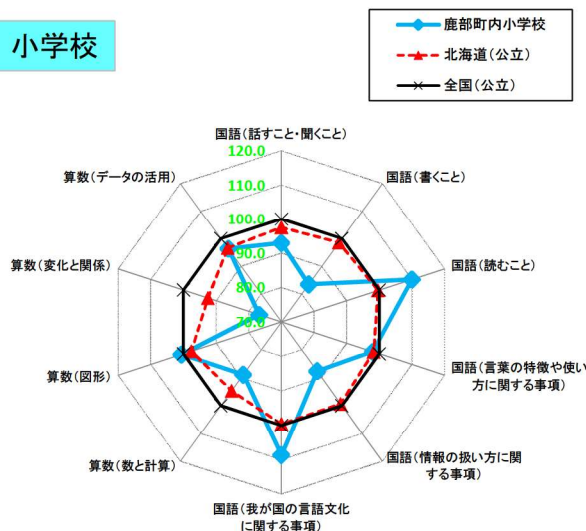
鹿部町内の状況及び学力向上策（小学校数：1校、児童数：21人）（中学校数：1校、生徒数：21人）

【教科全体の状況】

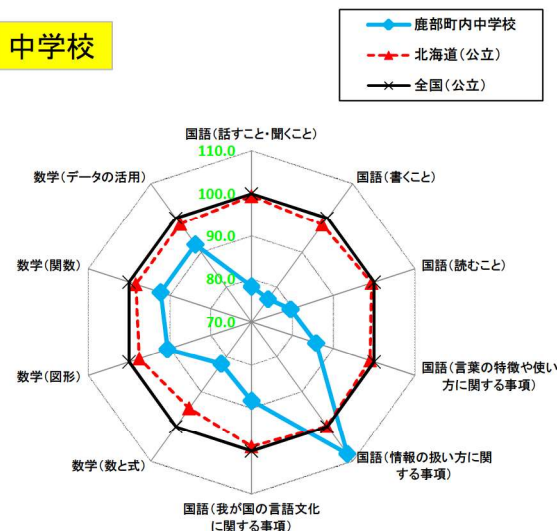
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
 （市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	66	49
算数・数学	58	47

小学校

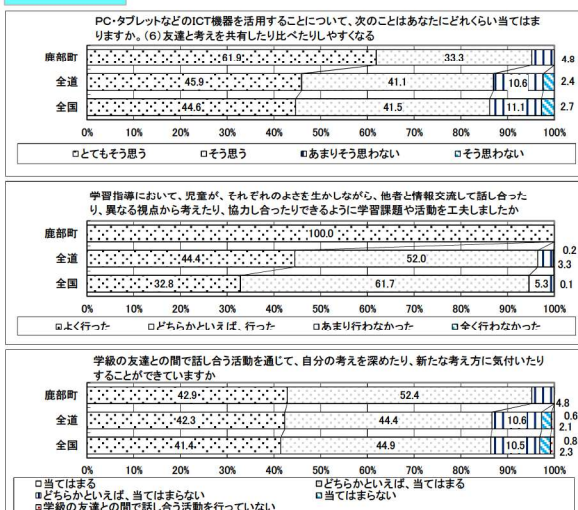


中学校

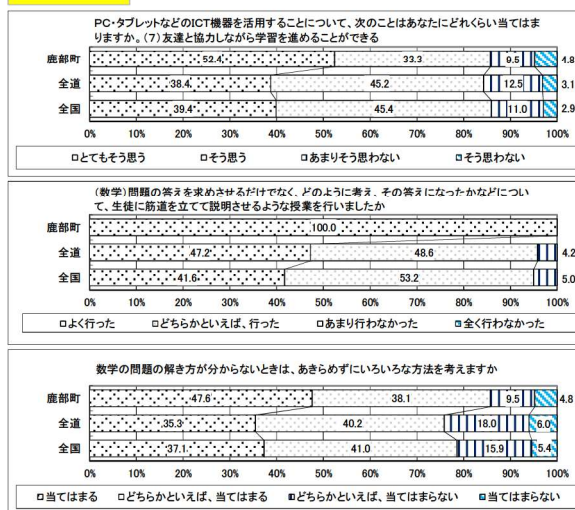


【質問調査の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

授業において、ICT機器を活用した「個別最適な学び」と「協働的な学び」の充実に取り組んだことにより、学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、友達と考えを共有したり比べたりしやすくなる」と回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

学習指導において、児童が、それぞれのよさを生かしながら、他者と情報交流して話し合ったり、異なる視点から考えたり、協力し合ったりできるように学習課題や活動を工夫したことにより、学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができると肯定的に回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校

授業において、ICT機器を活用した「個別最適な学び」と「協働的な学び」の充実に取り組んだことにより、学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、友達と協力しながら学習を進めることができると回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

数学の授業において、問題の答えを求めさせるだけでなく、どのように考え、その答えになったかなどについて、生徒に筋道を立てて説明させるような授業を行ったことにより、数学の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えると回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【鹿部町の学力向上策】

- ◎ ICT機器を活用した「個別最適な学び」と「協働的な学び」の充実
- ◎ オンラインによる双方向型授業や学習支援サービスを活用した家庭学習等、学びの保障の充実
- ◎ 幼児教育を基盤とした幼小中の一貫した教育に向けた施策の推進

【Webページ】



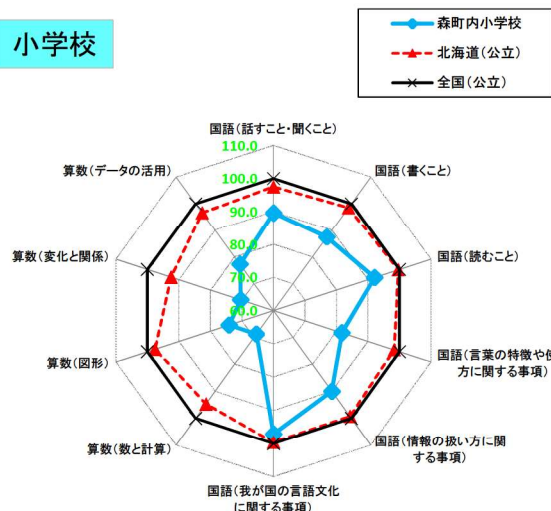
■森町内の状況及び学力向上策（小学校数:3校、児童数:87人）（中学校数:2校、生徒数:84人）

【教科全体の状況】

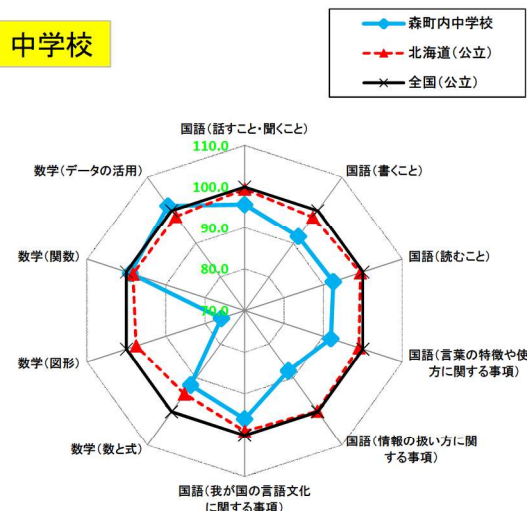
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	60	54
算数・数学	46	50

小学校

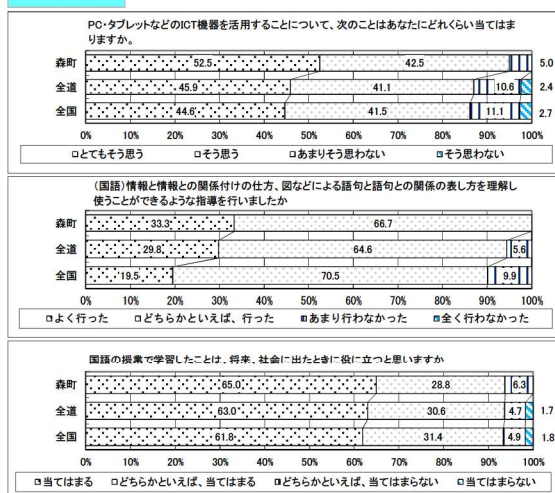


中学校

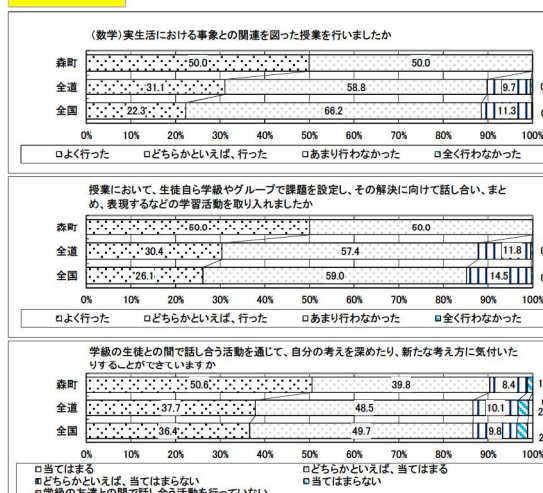


【質問調査の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

ICTを活用した主体的・対話的で深い学びに向けた授業改善に取り組んだことにより、学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、友達と考えを共有したり比べたりしやすくなると回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

国語の授業において、情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができるような指導を行ったことにより、国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校

数学の授業において、実生活における事象との関連を図った授業を行ったことにより、生徒の学習内容の理解が深まり、数学の「データの活用」の領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

授業において、生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れたことにより、学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすると回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【森町の学力向上策】

- ◎ 小中9年間を通した教育課程の編成と指導の充実
- ◎ 小・中学校教員による相互乗り入れ指導や児童生徒の交流学習等の充実
- ◎ 英語教育推進協議会を中心とした、乗り入れ指導や指導方法の工夫・改善等の一貫した指導体制の整備
- ◎ ICTを活用した主体的・対話的で深い学びに向けた授業改善の推進

【Webページ】



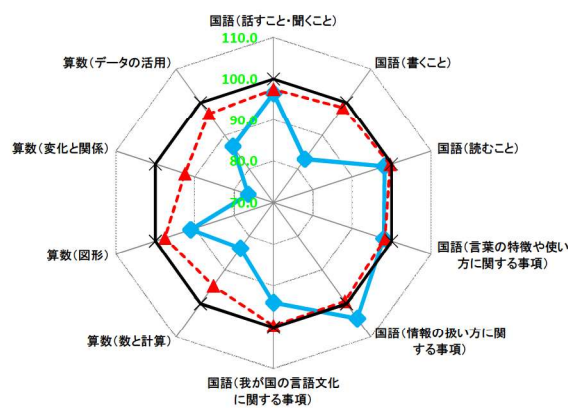
■八雲町内の状況及び学力向上策（小学校数:7校、児童数:97人）（中学校数:4校、生徒数:97人）

【教科全体の状況】

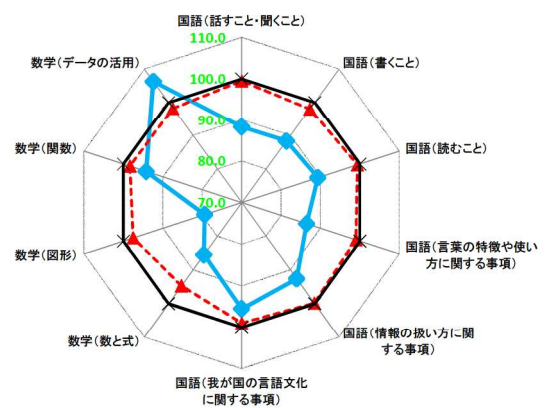
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
 （市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	65	52
算数・数学	54	49

小学校

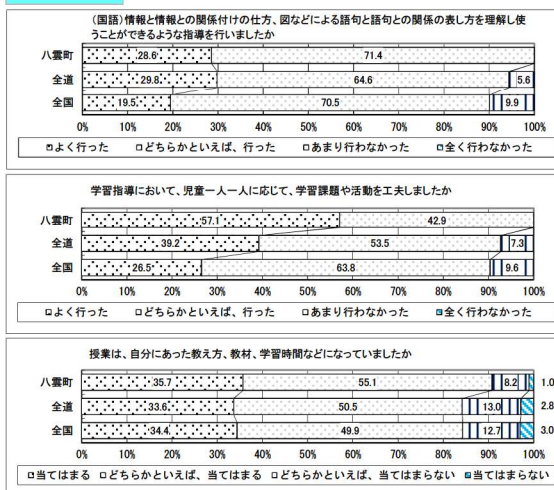


中学校



【質問調査の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

国語の授業において、情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができるような指導を行ったことにより、児童の学習内容の理解が深まり、国語の「情報の扱い方にに関する事項」で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

学習指導において、児童一人一人に応じて、学習課題や活動を工夫したことにより、授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていたと回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校

数学の授業において、実生活における事象との関連を図った授業を行ったことにより、生徒の学習内容の理解が深まり、数学の「データの活用」の領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

学習指導において、生徒が、それぞれのよさを生かしながら、他者と情報交換して話し合ったり、異なる視点から考えたり、協力し合ったりできるように学習課題や活動を工夫したことにより、授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切に、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいると回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【八雲町の学力向上策】

- ◎ 「基礎的・汎用的読解力」の育成に視点を当てた授業改善に係る共通実践事項「八雲スタイル」の推進
- ◎ 全小・中学校における活用ロードマップに基づいた、1人1台の学習用端末の日常的な活用「普段使い」の推進
- ◎ 各中学校区内で目指す15歳の姿を共有した「小中一貫型コミュニティ・スクール」の推進

【Webページ】



(R6.11掲載予定)

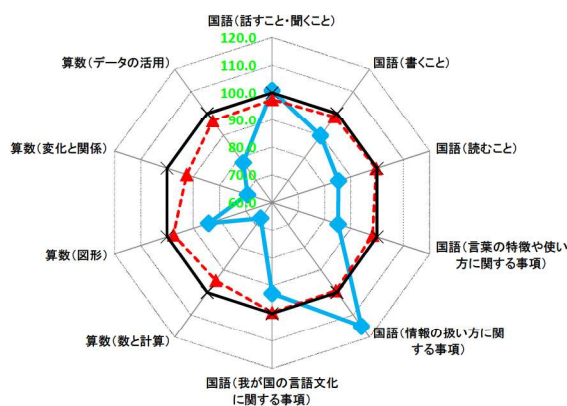
■長万部町内の状況及び学力向上策（小学校数:1校、児童数:26人）（中学校数:1校、生徒数:30人）

【教科全体の状況】

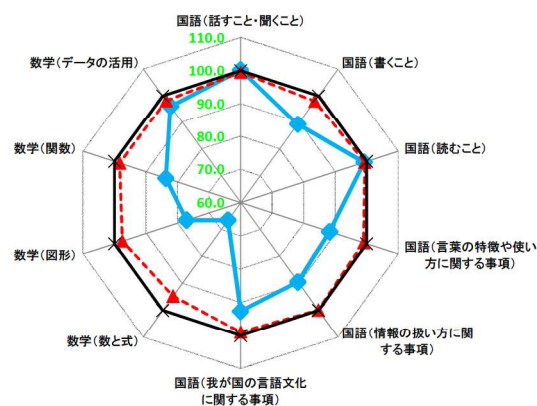
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	62	54
算数・数学	48	43

小学校

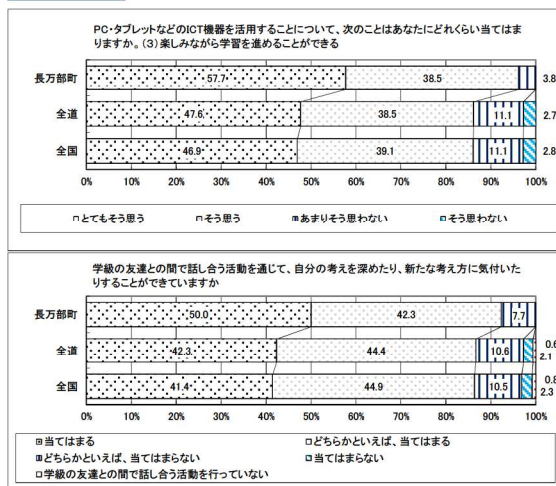


中学校

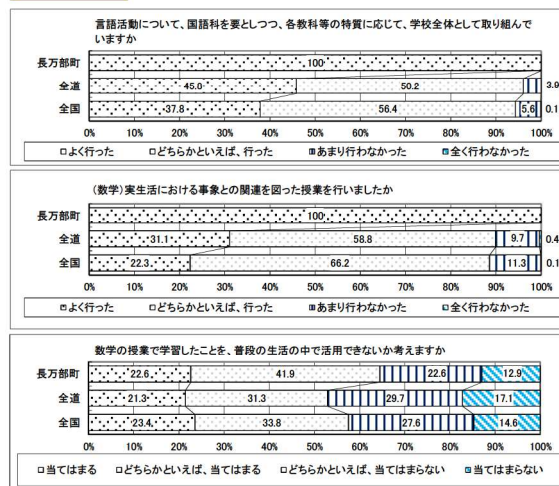


【質問調査の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

教職員の情報活用能力の育成及びICTを活用した教育活動を推進したことにより、学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、楽しみながら学習を進めることができると回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

授業内容の工夫やICTの活用等の授業改善を進めたことにより、学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができると回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校

言語活動について、国語科を要しつつ、各教科等の特質に応じて、学校全体として取り組んだことにより、授業改善が図られ、国語の「話すこと・聞くこと」の領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

数学の授業において、実生活における事象との関連を図った授業を行ったことにより、数学の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えると肯定的に回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【長万部町の学力向上策】

- ◎ 教職員の情報活用能力の育成及びICTを活用した教育活動の推進
- ◎ 幼児及び児童の交流や教員間における意見交換の機会の確保による幼保小連携の促進
- ◎ 長万部町教育連携会議における課題の整理及び対策の検討による小・中学校、高等学校が連携した教育活動の充実
- ◎ 授業内容の工夫やICTの活用等、学力向上につなげるための授業改善の推進

【Webページ】

